

「平庭の麓から」

文責：久慈市立山形小学校 校長 角谷 隆章

学校+保護者+地域=子どもの健やかな成長

「学び高め合う子」、「心豊かな子」、

「強くたくましい子」の育成をめざして

【今、ここに生きるための質問！】

かなり前のことですが、ある先輩の先生から「自分の価値観を探る」ための質問を紹介されて、考えたことがあります。次の質問です。『もしも、あなたの人生が残り3日間しかなかったとしたら、この3日間何をしますか？』少し考えてみてください……。よろしいでしょうか？ 答えは出ましたか？ まだ考えていない方は、‘人は、命が残り3日間しかなかったとしたら、自分にとって最も大切なことに時間を使おうとします’。続きを読む前にぜひ考えてみてください。そろそろよろしいでしょうか？

アメリカでは、死から学ぶ教育（デス・エデュケーション）が盛んに行なわれているそうです。ある大学の公開講座では、先生がまさしく次の質問をするそうです。「もしもあなたの命が、あと3日しかなかったとしたら、何をしますか？」参加者たちは、みな真剣に考えます。出てきた答えは……、

- ・「妻に『今までいっしょにいてくれてありがとう。もっといい夫でありたかったのに、ごめんね』と伝えたい」
- ・「夫に『いっぱい喧嘩もしたけど、私のパートナーでい続けてくれてありがとう』と伝えたい」
- ・「両親に『たくさん親不孝してごめんなさい』と謝って、『生まれてきてほんとうによかったと思っています。ありがとう』って伝えたい」
- ・「自分の子どもに『ガミガミ叱ってきたけど、あなたは、ほんとうはいい子なのよ。あなた、ほんとうに優しい子よ。たくさん幸せをありがとう』って伝えたい」
- ・「喧嘩別れした友達に『あの時は、ごめん』って謝りに行きたい」
- ・「大切な人達全員に、手紙を書きたい」
- ・「家族と最高に楽しい思い出をつくりたい」 などなど

人は、3日間しかなかったら、みんな優しくなれるようです。そして、最後に先生が、参加者全員に問いかけるそうです。「みなさんは、人生が3日しかなかったらできることを、どうして一生かけて、やらないのですか？」参加者たちは絶句するそうです。

本当の成功というのは、何か特別な成果を出すということではなく、一番大切なことを、一番に実行することではないでしょうか？ その勇気をもつことではないでしょうか？ そこに、本当の成功、本当の幸せがあるように思います。人生はエンドレスではないのですから。

「悔いのない人生」という言葉がありますが、私たちの人生はあと何日残されているか、私たち誰も知らないのです。「明日からを7回言うと1週間になる 来週からを4回言うと1か月になる 来月からを12回言うと1年になる 来年からを数十回言うと、私たちは灰になる」

私事、去年は、母親の三回忌と父親の一回忌、今年は、父親の三回忌でした。先月、お盆の時期に改めて死についてふっと考える時間があり、そのとき頭に浮かんだ話題を紹介しました。

ハリウッド映画で「ラストサムライ」というのがありましたよね。知っている方も多いと思います。最後の場面で、天皇から「SAMURAI 勝元の死に様を話してくれ」と頼まれたオールグレン大尉（トム・クルーズ）は、「彼の、生き様について話しましょう」と話を始めました。死に様は、その人の生き様を、一瞬で伝えます。デス・エデュケーションは、「死」を考える事で「生」をみるのです。

「親が死ぬまでにしたい55のこと」という本があります。私自分はどうだったかを振り返ると、「自分の名前の由来を聞く」「親と一緒に酒を酌み交わす」「父とキャッチボールをする」「お正月を一緒に過ごす」「親とけんかしたことを思い出す」「親の肩をもんであげる」「親の結婚記念日をお祝いする」などなど、亡くなる前にできたことは結構あるのかな……と思います。（やっておけばよかったと思うこともたくさんあります）

各家庭、事情はそれぞれ異なるでしょうし、自分の親よりも、小学校に通う子どもの子育てで毎日が忙しいという方々にとっては、あまり必要のない話題だったかもしれませんが、「今」を生きるためのヒントを少しでも感じ取っていただけたなら、私としてはうれしい限りです。

「笑い」の色は何色？～先月の全校集会で私が話したことから～

以前、「外国人に一言だけ日本語を教えるなら、これだ」と聞いたことがあります。何だと思えますか？一言です。答えは『どうも』です。「どうもこんにちは」「どうもありがとう」「どうもすみません」

「どうも」って、あいさつにも、お礼にも、謝るときも使えますよね。頭につく言葉なので、とても便利です。でも世の中にはもっと便利な『世界共通語』があります。それは何でしょう？

Smile is a World language. わかりますか？そう、『笑い』、『笑顔』です。笑顔はまさに世界共通語。親しみや愛情を相手に伝える、“一番簡単でありながら、究極の手段・方法”です。

では、さらに質問をします。『笑い』の色は何色か知っていますか？ 笑いに色なんてあるの？と思う人がいるかもしれませんが、実はあるらしいのです。例えば、ウソだって『真っ赤なウソ』なんていう時があるでしょう？

もう亡くなりましたが、江戸時代研究家の故・杉浦日向子さんによると、『笑い』に関する言葉には、ある色が使われることが多いのだそうです。これがヒント。さて、何色かわかりますか……？

笑いの色、それはズバリ、『茶色』です。こんな言葉があります。聞いたことがある人もいると思います。『茶化す』『お茶らける』『茶々を入れる』『お茶目』……笑いに関する言葉を集めてみると、確かにみんな茶色です。この実際には色がないものに、「色」を感じるのが脳の不思議なところですね。

さて、「茶」という言葉には「色」のほかに、もちろん飲み物の「お茶」の意味もあります。人をもてなすときはお茶を入れます。体や心が疲れたとき、1杯のお茶で癒されることがあります。もてなしに使われ、疲れを取ってくれる「お茶」。このお茶の効用と「笑い」が持つ効用、実は、どちらも同じなんですね。

「お客様を歓迎するとき」、「緊張している人の心をほぐすとき」、「はじめて会った相手と仲良くなりたいとき」、1杯のお茶を差し出すのと同じように、私たちはその相手に『笑顔』で接します。「笑顔の色」が「茶色」だというのは、もしかしたら偶然ではないのかもしれませんが、『笑顔』ほど、他人（ひと）をホッとさせてくれるものはありません。

人を笑わせる人は、誰からも好かれる人です。そして、ピンチの時、笑いでまわりの緊張を和らげてくれる人はチームの宝です。さあ、あなたは自分の笑顔でまわりの人を笑顔にしているでしょうか？ ちょっと振り返ってほしいと思います。

「夜、眠る前に読むと心が『ほっ』とする50の物語」の一話をアレンジして話しました。